特殊報

６　病　第　１　号
令和６年２月１日

関係各位

京都府病害虫防除所長
（　公　印　省　略　）

病害虫発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので、送付します。

発生予察特殊報第１号

病原ウイルス　Cucurbit aphid-borne yellows virus：CABYV
作　物　名　キュウリ
発 生 地 域　京都府南部

１　発生経過

（１）令和５年７月、京都府南部の露地キュウリほ場において、葉に退緑及び黄化症状を示す株が認められた。
（２）本府生物資源研究センターにおいて RT-PCR 法による検定及び RT-PCR の増幅産物の塩基配列解析から、CABYV の感染を確認した。
（３）本ウイルスの発生報告は、国内では初めてである。

２　病徴

中位葉において、葉の半分程度に退緑及び黄化症状が発生する（図１）。さらに、症状が進むと葉全体が黄化する（図２）。

３　病原ウイルスの特徴と伝搬方法

（１）本ウイルスは、ソレモウイルス科ポレロウイルス属に属し、1988 年にフランスにおいて、キュウリ、ズッキーニ、カボチャ及びメロンで初めて発生が確認され（Lecoq et al., 1992）、以降、海外４５カ国で主にウリ科野菜に被害を及ぼしている。
（２）国内での本ウイルスの媒介虫は不明である。フランスなど海外では、ワタアブラムシ等のアブラムシ類が媒介虫であるとされている。汁液、種子及び土壌伝染は確認されていない。
（３）媒介虫は、罹病植物を吸汁することで本ウイルスを保毒し、一度ウイルスを獲得すると永続伝搬するが、経卵伝染はしない。

（４） 若い株が感染すると着花不良によって収量が大きく低下し、キュウリでは最大 50％減収する事例が海外では報告されている（Lecoq et al., 1992）。

４　防除対策

（１）発病株は直ちに抜き取り、ポリ袋等に密閉してほ場外に持ち出し適切に処分する。

（２）国内での媒介虫は不明であるが、海外の情報からアブラムシ類の防除を徹底する。

①苗からアブラムシ類を持ち込まないよう注意する。

②施設の開口部に 0.8mm 目以下の防虫ネットを展張し、アブラムシ類の侵入を防ぐ。

③ほ場周辺の雑草は発生源となるので、除草を徹底する。

④ほ場周辺にアブラムシ類を分散させないため、栽培終了後には全株を地際から切断または抜根し、施設を密閉して死滅させる。

⑤アブラムシ類の薬剤感受性の低下を防ぐため、同一グループの薬剤の連用を避ける。

５　引用文献

Lecoq et al. (1992) Plant Pathology 41: 749-761.

図１　半分が黄化した葉

図２　全体が黄化した葉

図３　ほ場での発生の様子

京都府病害虫防除所
TEL：0771-23-9512
京都府生物資源研究センター応用研究部
TEL：0774-93-3527